

第 3 . 4 学年 国語科複式学習指導案

児 童 第 3 学年 男 1 名

第 4 学年 男 2 名 女 1 名 計 4 名

指導者 太 田 孝 之

1 単元名

心に残る発表会をしよう（パターン B - 2）

2 教材名

「おじいちゃんとぼく・わたし」

3 教材について

(1) 教材観

本教材は、光村図書の、3年「調べたことを発表しよう『みんな子どもだった』」と4年「心に残る発表会をしよう『十さいを祝おう』」をもとにして、児童の実態を考慮して題材を工夫したもので、3，4年同内容で学習をする。祖父への思いを題材にした点については、本校の児童は、多くの家庭が3世代4世代同居であるが、家族間のつながりが非常に強く、児童会活動の七夕集会では、自分自身の願い事より、家族の幸せや健康を願う子がほとんどである。このように、自分より家族を優先する家族思いの子ども達なので、祖父とのふれ合いや思い出は、題材として適当であると考えた。

尚、本研究は3年目となるが、本単元においては、一昨年は、兄弟姉妹との思い出を題材とした「ぼくと兄と弟と（わたしと姉と妹と）」、昨年は、本校に隣接する児童館の先生との思い出を題材とした「あこのころ～児童館の思い出をスピーチしよう」という題材で指導を展開した。

学習活動は大きく4つに分けられる。1つ目は、これまでの祖父との思い出を振り返り、それぞれの思いを語り合うこと、2つ目は、スピーチに向け、その内容を深めるために、家族にインタビューをすること、3つ目はインタビューで知ったこと、確かになったことをもとに、伝えたい思いをはっきりさせスピーチにすること、4つ目はスピーチの発表である。

これらの活動を通して、3，4年生の「話すこと・聞くこと」に関する指導目標である「相手や目的に応じ、調べたいことなどについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。」ことを目指し、内容「ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」に重点を置き指導する。

【5つの言語意識について】

相手意識・・・インタビューする相手と発表会での聴き手に

目的意識・・・祖父への思いを伝えるために

場面・状況意識・・・インタビュー，スピーチ練習，発表会で

方法意識・・・インタビューやスピーチの仕方を考えて

評価意識・・・練習前と練習後のスピーチのビデオを比べて

(2) 児童観

児童は，児童朝会でのスピーチやゆとりでの音読集会，さらには，全校総会（全校児童による月目標についての取り組み等の話し合い活動）等の，「話すこと・聞くこと」領域の能力の育成に関わる全校規模の取り組みを通して，音読の仕方や話し方，相手の考えと比較しながら意見を述べたり，感想を筋道を立てて話すこと等の学習を行っている。また、学級では，朝の会で，印象に残ったテレビのニュースや家庭での出来事について，また，みんなを楽しませるスピーチ活動を行っている。

その結果，相手に分かりやすく伝わるように話すことについての意識の高まりが感じられ，人前でははっきりと適切な音量で話すことについての進歩が見られ，話し合い活動においても，意思表示がはっきりとできる子が増えつつある。

しかし，話の内容は，出来事を述べるだけの深まりのないものであったり，叙述が曖昧だったり，表現が不的確であることも多く，考えや喜怒哀楽を，適切な言葉で表現したり，筋道を立てて順序よく話したりする力は，やや不足している。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、児童一人一人の祖父に対する思いを大切にしながら、幼少のころから現在までの祖父との思い出を両親や兄（姉）へのインタビューではっきりさせたい。そしてインタビューしたことをもとに、祖父に対する自分の思いについて、三年生はスピーチ原稿，四年生はスピーチメモにまとめ、発表させる。インタビューの仕方やメモの取り方は今後の社会科学習や総合的な学習の時間にも行うことも考えられ、また、スピーチの内容に大きく係わってくるので、個々の実態を考えながらきめ細かな指導を行いたい。

(4) 仮説との関わり

・同単元同内容学習について

3年生1名では、「話すこと・聞くこと」領域における学習活動は困難を要する。異学年同単元同内容による学習指導形態を組むことで、一つには学ぶ人数が増え、子ども達同士が学び

合い，高め合う学習が成立する。また，3，4年生を交えたグループ学習を行うことにより，4年生が既習事項を生かして，3年生へのアドバイスや意見交換を行うことができ，学習効果が期待できると考える。

・支援表の活用について

学級の人数が少ないため，個々の児童の学び方が学級全体の学習に大きく影響する。支援表に児童一人ひとりの学習状況を記録し次時の指導の手立てを講じることで，指導の経緯や児童の変容を把握できる。このことが，学級全体の学習効果を高めることにつながると考える。

(5) 単元の目標

【関心・意欲・態度】

祖父との思い出を振り返り，伝えたい思いをスピーチしようとしている。(3，4年共通)

【話すこと・聞くこと】

〔3年〕

「おじいさんとぼく・わたし」という話題で，伝えたいことの中身がよく分かるように筋道を立ててスピーチすることができる。(ア)

〔4年〕

「おじいさんとぼく・わたし」という話題で，自分の考えが聞き手に伝わるように組み立てを考えてスピーチすることができる。(ア)

【言語についての知識・理解・技能】

相手やその場に応じた，適切な話し方をすることができる。(3，4年共通)〔ア(ア)〕

(6) 単元の評価規準

	3年	4年
関心・意欲・態度	祖父との思い出を振り返り，自分の思いを伝えるスピーチ発表会に向けて，インタビュー活動やスピーチ原稿作りを進んで取り組もうとしている。	祖父との思い出を振り返り，自分の思いを伝えるスピーチ発表会に向けて，インタビュー活動やスピーチメモ作りを進んで取り組もうとしている。
話すこと・聞くこと	祖父に伝えたい思いを，思い出を振り返ったりインタビューをして分かったことをもとにして，中身がよく分かるように筋道を立ててスピーチしている。	祖父に伝えたい思いを，思い出を振り返ったりインタビューをして分かったことをもとにして，聞き手に伝わるように組み立てを考えてスピーチしている。
言語についての知識・理解・技能	話す内容や相手に合わせて，適切な音量や速さ，言葉遣いで話している。	話す内容や相手，場に応じて，声の大きさや速度を変えたり，抑揚をつけて話している。

(7) 指導と評価の計画 (14時間)

次	時	学習内容と 主な活動	学習活動における具体的評価規準			
			関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての 知識・理解・技能	
一	1	祖父を招いて発表会を開くことを知り，学習の見通しを持つ。	3年	祖父を招いて発表会をしようとしている。	新出漢字の読みを理解している。	
			4年	〃		〃
二	2	発表会の計画を立てる話し合いの仕方を学ぶ。	3年	話し合いの仕方について，理解しようとしている。	伝えたいことをはっきりさせて意見を話すことを理解している。	
			4年	〃		互いの意見の共通点や相違点を考えながら，意思表示をはっきりさせて話すことを理解している。
	3	発表会の計画を立てる話し合いを行い，題名，招待者，内容などについて決める。	3年	どのような会にすればよいか考え，自分の意見を発表しようとしている。	伝えたいことをはっきりさせ，自分の意見を話している。	全員に伝わる声の大きさや速さで話している。
			4年	どのような会にすればよいか考え，意見を発表したり，他の意見を聞こうとしている。	互いの意見の共通点や相違点を考えながら，意思表示をはっきりさせて話している。	〃
三	4	祖父への思いを伝えるスピーチの内容を決め，構想を練る。	3年	どのような思いを伝えたいか考えようとしている。	祖父との思い出を振り返りながら，伝えたい思いを整理し決めている。	
			4年	〃	〃	
	5	スピーチを深めるためのインタビューの計画を立てる。	3年	スピーチの内容を深めるために，インタビューしようとしている。	尋ねたいことの順序を考えてインタビューメモを作っている。	
			4年	〃	尋ねたいことの中心をはっきりさせてインタビューメモを作っている。	

次時	学習内容と 主な活動	学習活動における具体の評価規準			
		関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての 知識・理解・技能	
6	インタビューの 仕方について理 解し，練習をす る。	3 年	インタビューの仕方 について，考えよう としている。	インタビューの仕方 を理解し，インタビ ューの練習をして いる。	丁寧な言葉遣いで， はっきりと話すこ とを理解している。
		4 年	よりよいインタビ ューの仕方について， 考えようとしている。	よりよいインタビ ューの観点に沿っ て，インタビ ューの練習をして いる。	相手に応じた言葉遣 いではっきりと話 すことを理解して いる。
課 外	インタビューを する。 (録音)	3 年	練習を生かしてイン タビューをしようと している。	メモをもとに順序よく インタビューをして いる。	丁寧な言葉遣いで， はっきりと話して いる。
		4 年	”	メモをもとに，尋ね たいことを中心を はっきりさせて インタビュー をしている。	相手に応じた言葉遣 いではっきりと話 している。
7 8	インタビューで 知ったこと，確 かになったこと をもとに，祖父 へ伝えたい思い をはっきりさせ， スピーチを組み 立てる。	3 年	祖父へ自分の思いを 伝えようとしている。	伝えたい思いが祖父に 伝わるように，筋道 を考えながらスピー チ原稿を書いている。	/
		4 年	”	伝えたい思いが祖父に 伝わるように，組み 立てを考えてスピー チメモを作っている。	
9	スピーチを聞き 合い，アドバイ スをする。	3 年	4年生のスピーチの 良いところを見つけ ようとしている。	4年生のスピーチから 学んだことを発表し ている。	スピーチ原稿を正し く読んでいる。
		4 年	友達のスピーチの良 さや改善点を見つけ ようとしている。	友達のスピーチの良 さや改善点をアドバ イスしている。	声の大きさや速度， 句読点に気をつけ ながら，スピーチを している。

次	時	学習内容と 主な活動	学習活動における具体の評価規準			
			関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての 知識・理解・技能	
10 11		アドバイスをもち、スピーチの練習をする。 (本時1/2)	3年	めあての達成を目指して練習しようとしている。	アドバイスを生かして、めあてに沿ったスピーチの練習ができる。	聞き手に伝わる声の大きさや速度で話し、句読点では間を取りながら、スピーチをしている。
			4年	めあての達成を目指して練習しようとしている。	伝えたい思いを、祖父との思い出を組み立ての柱として分かりやすくスピーチしている。	適切な声の大きさや速度で、聞き手を見ながらスピーチをしている。
12		発表会の準備、リハーサルをする。	3年	発表会の準備に進んで参加しようとしている。	祖父が聞いている様子を想像して、スピーチをしている。	/
			4年	"	"	
四 13		発表会を開く。	3年	心に残る発表会にしようとしている。	伝えたい思いを、心を込めてスピーチしている。	祖父を見ながら、声の大きさや速度に気を付け、句読点では間を取りながら、スピーチをしている。
			4年	"	"	祖父の表情を見ながら、声の大きさや速さを考え、抑揚をつけてスピーチしている。
五 14		学習を振り返る。	3年	自分のスピーチに満足感をもち、これからもスピーチをしようとしている。	筋道を立ててスピーチをすると、伝えたいことの中身がよく分かることを理解している。	相手やその場に応じて、適切な話し方をすることの大切さを理解している。
			4年	"	組み立てを考えてスピーチすると、自分の考えが聞き手に伝わることを理解している。	"

4 本時の指導

(1) 目標

〔3年〕

聞き手に伝わる声の大きさや速度で話し，句読点では間を取りながらスピーチすることができる。

〔4年〕

伝えたい思いが聞き手に伝わるように，組み立てを考えながらスピーチすることができる。

(2) 本時の展開

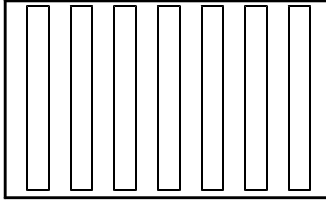
段階	学 習 活 動	支援（*） 評価規準（A・B）	
		3 年	4 年
導 入 7 分	<p>1 課題把握。</p> <p>スピーチの達人をめざして練習をしよう。</p>		
	<p>2 練習のめあての確認。</p> <p>*練習のめあて</p> <p>〔3年〕 「，」や「。」では，伝えたい人の目を見る。 伝えたいことがよく分かるように声の大きさや話すはやさを変える。</p>	<p>*練習めあてを確認し，本時の学習のねらいをとらえさせる。</p> <p>*スピーチの達人の手本として，高学年のスピーチをビデオで示し，イメージを膨らませる。</p>	<p>〔4年〕 伝えたい気持ちがよく分かるように組み立てを考え，話の中心をはっきりさせる。 メモはなるべく見ないで伝えたい人を見てスピーチする。 話の内容に合わせて，声の大きさや話す速さを変える。</p>
展 開 28 分	<p>3 めあてをもとにグループで練習する。</p> <p>A 4年T男 4年S女 B 4年K男 3年Y男</p>	<p>*聞き手には，めあてにそって評価（ と一言アドバイス）を記入するカードを持たせる。カードは，1回の練習の度に記入させ，紙板書の「達人度」の欄に貼らせ，練習の励みにさせるとともに，練習の進み具合の把握に活用する。また練習はAグループは，めあての から，Bグループは から順に行わせ，「 」で達成とし，次のめあての練習に進む。</p> <p>*3年生と4年生のBグループでは，3年生の4年生へのアドバイスに教師が支援をする。</p>	

段階	学 習 活 動	支援（*） 評価規準（A・B）	
		3 年	4 年
展 開 28 分		<p>* めあて達成の多い児童の練習をビデオに撮り，終結での次時への意欲づけに活用する。</p> <p>A 句読点では聞き手を見て声の大きさや話す速度を変えながらスピーチをしている。</p> <p>B 聞き手に伝わる声の大きさや速度で話し，句読点では間を取りながら，スピーチをしている。</p>	<p>A 伝えたい思いがよく伝わるように，組み立てを工夫し，声の強弱や話す速度を変えながら，心を込めてスピーチをしている。</p> <p>B 伝えたい思いを，祖父との思い出をもとにして分かりやすくスピーチをしている。</p>
終 結 10 分	<p>4 練習を振り返る。</p> <p>・ めあて達成の多い児童の，練習前のスピーチと本時練習後半のスピーチをビデオで比べながら，その良さと上達した点を認め合うとともに，自分の練習を振り返る。</p>	<p>* めあて達成の多い児童の，練習前（前時録画）と練習後半のスピーチを比較させ上達をとらえさせることで，他の児童に，「自分のスピーチの上達もビデオで比較してみたい。」という思いを抱かせ，次時の学習（練習2時間目）への意欲化を図る。</p>	

* 板書計画

学習課題
 スピーチの達人をめざして練習しよう。

* 達人のスピーチ 組み立てのちがいがいい



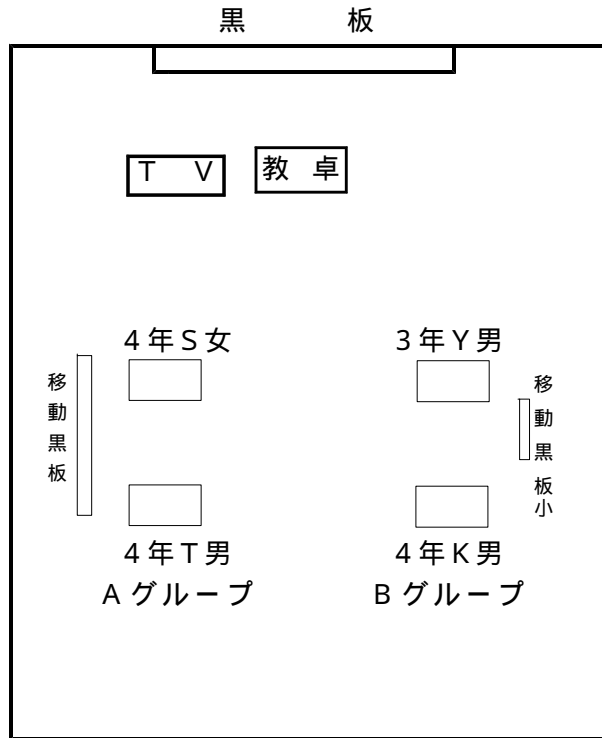
話の中心
 ・どこで
 ・いつ
 ・思い出

話の中心
 ・どこで
 ・いつ
 ・思い出

スピーチアドバイス
 練習のめあて
 「「や」」では伝えたい人の目を見る。
 声の大きさや話すはやさを変える。
 組み立てを考え、話の中心をはっきりさせる。
 伝えたい人を見てスピーチする。
 声の大きさや話す速さを変える。
 伝えたい人を見てスピーチする。
 声の大きさや話す速さを変える。
 伝えたい人を見てスピーチする。
 声の大きさや話す速さを変える。

S	さん	T	君	K	君	Y	君				
								1	達人度		
								2			
								3			
								4			

* 座席表



練習時

